

眼前に広がる初夏の訪れ

春過ぎて 夏来にけらし 白妙の 衣干すてふ 天の香具山

持統天皇

訳：いつの間にか春が過ぎて夏が来たらしい。

真っ白な衣を干すという天の香具山に。

作者の持統天皇は、百人一首の一番歌「秋の田のかりほの庵のとまをあらみわが衣手は露にぬれつつ」の作者天智天皇の皇女で、13歳の時に叔父の大海人皇子（後の天武天皇）に嫁ぎ、天武天皇没後、史上4人目の女性天皇として即位しました。

百人一首の中で夏の歌は、4首あります。他の季節に比べ少ない歌数です。当時の暦では、1～3月が春、4～6月が夏でしたので、今の季節感とは少し違います。奈良県にある大和三山の一つである香具山は、天から降ってきた神聖な山と言われていることから、「天の香具山」と表現されています。香具山では、夏になると白い衣を干す習慣がありました。初夏の新緑と白い衣の色彩鮮やかな風景が目には浮かびますね。

山陽小野田市も、初夏が訪れ美しい万緑でいっぱいです。豊かな自然から元気を分けてもらえますね。

小野田高等学校小倉百人一首かるた部 顧問 青池 のぞみ